

## 児童のわかるようになりたいとの思いに応えるために

学校は、集団生活を通して様々なことを学ぶ場所です。なかでも、学習は学校生活の多くを占めています。この学習において、満足感や達成感を得られるようにすることが、児童の学校生活の楽しさや豊かさにつながると考えます。児童誰もがもっている「もっとわかるようになりたい。」「もっとできるようになりたい。」という思いをしっかりと受け止め、本校では児童一人一人の学びを大切にしたい取組を次のように進めています。

### 教員の指導力を高める取組

#### その1 校内研修の充実

教員の指導力を高めるために、教員相互に授業を公開し、授業のあり方について話し合う校内研修を行っています。本校では、校内研修のテーマを「だれもが楽しく『わかる・できる』授業の創造」とし、本年度は国語を中心に研究を行っています。

本年度の校内研修は、5月から1月までの年間7回行い、1年生から6年生の各学年となかよし、専科等の先生が授業を公開し、授業における児童の姿から授業を検討しています。指導助言をいただく先生として、次のお二人の先生にお願いしています。

- 秋田喜代美先生 東京大学大学院教授 日本全国の研究学校に出向き、子どもたちの学びをどうつくっていくかという点から指導助言をされています。
- 松本 敏 先生 宇都宮大学教授 栃木県内の小中学校の校内研修の講師として、授業づくりや授業の見方等について指導・助言をされています。

10月28日（水）には2年生3クラスが国語の「ビーバーの大工事」の授業を公開しました。ビーバーがダムを作る順番を正しく読み取れるように、教科書の文を並べ替えたり、文の間違ひさがしをしたりするなどの工夫をしました。また、イラスト図を用意し、図を操作することで文の内容が読みとれているかを確認しました。児童が意欲的に取り組む授業となりました。講師の秋田先生からは、手が挙がっていない児童をどう支えるかが大切であるご指摘いただきました。児童同士がつながり、支えあう関係をどうつくっていったらよいかということについて指導助言をいただきました。



#### その2 優れた授業を見て学ぶ

12月5日（土）は市内小学校一斉の土曜授業です。その日の午後に、4年1組の児童を対象に、筑波大学附属小学校の桂 聖（かつら さとし）先生に授業を行っていただき、教員が授業づくりについて学びます。

桂先生は、「国語授業のユニバーサルデザイン～全員が楽しく『わかる・できる』国語授業づくり～」という本も出されていて、誰もが「わかる・できる」授業について実践研究している第一人者です。4年1組の保護者の皆様には同伴下校等でお世話になりますが、趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

### 基礎や基本をしっかり身に付けさせる取組～パワーアップタイム～

算数については、かけ算がよく理解できていないと割り算もできないというように、つまずきがその後の学習に大きく影響する教科です。児童一人一人が自分の理解やペースに応じながら、基本的な計算技能を積み上げていけるように、朝の時間に「パワーアップ」の時間を設けています。計算を中心としたプリントによる学習とな

りますが、児童のつますきを支援できるように、担任以外の教職員も指導に加わり、どのクラスとも2名以上の教員が指導にあたるようにしています。

プリントは少人数指導担当の高橋教諭が1年生から6年生までに習う計算等を系統的に学習できるように全部で170枚用意しました。週1回で、15分間という短い時間ではありますが、児童はとても集中し、意欲的に取り組んでいます。児童の計算力が向上することを期待しています。



## 地域の人から地域について学ぶ

10月3日(土)に陽南小学校地域協議会主催の「陽南てくてくウォーク」が行われました。陽南地区にある名所旧跡などを親子で見歩くことで、親子のふれあいを図り、自分たちの住んでいる地域についての理解と地域への親しみを深めてもらいたいとの企画です。名所旧跡等についての説明は、陽南地域まちづくり推進協議会長の篠崎寛さんをお願いしました。

当日は小学校に集合し、初めに陽南小学校の生い立ちについて学びました。昭和21年1月に開校した当時の学校は、西原小学校の分教室だったことなど初めて分かったこともありました。続けて行った陽南の森での宝探しに、子どもたちは夢中になって取り組みました。

次に訪れたのが、宮原運動公園です。宮原球場の中にも入れていただき、バックネット裏のスタンドから球場を見学しました。

球場からはナンキンハゼの並木のある宮原球場通りを歩き、「スバルロード」に向かいました。「スバルロード」はとても短い距離の道ですが、地域の人々が遠回りせずに歩けるようお願いしてできた道だったことに驚きました。

宮の原小学校では、学校ができる前は野球場であり、昭和7年から35年まで宇都宮市内唯一の常設野球場として使われていたことを初めて知りました。昭和9年にはベブルースを始めとする大リーグオールスターチームと全日本チームとの親善試合も行われたそうです。校門を入ってすぐ右のところに、ベブルースが来たことを表す記念碑がありました。篠崎寛さんの説明により、地域について新たな発見をすることができた「陽南てくてくウォーク」となりました。

学校では、宝探しやクイズラリーの商品が手渡され、児童は大喜びでした。また、陽南地区青少年育成協議会の皆様が用意してくださった「おしるこ」に大満足でした。

## 中学生から学ぶ

宇都宮市小学校陸上競技会が11月5日(木)に総合運動公園で行われました。この大会に向け、本校では、5・6年生の参加希望者を募り、10月15日から朝の時間(7:20~7:55)を利用し練習を重ねてきました。この練習に、10月26日と11月2日の2回、陽南中学校の陸上部の顧問の先生と生徒20名が来校し、走り幅跳びや走り高跳びの助走の仕方、100メートル走の走り方など手本を示しながら、具体的に指導していただきました。

学校の代表となり大会に参加した児童は、練習の成果を発揮しがんばりました。また、練習に参加した児童にとっては、自己の体力を知り、さらに体力を高めるよい機会となりました。

